■令和3年度　F-e目標

	内容	項目	単位	除外施設	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	備考
環境配慮	市有施設におけるエネルギー使用量削減	電気使用量削減	千kg-CO2換算（千kwh）	防災関連施設	目標値	2,497（6,605）	2,735（7,234）	2,786（7,370）	2,725（7,208）	2,742（7,255）	2,395（6,337）	別紙参照 ・令和２年度F-e環境監査報告書 ・第４次福生市地球温暖化対策実行計画（第４～５章）
					実績値	2,640（6,980）	2,762（7,309）	2,744（7,259）	2,552（6,750）	2,379（6,294）		
		電気以外のエネルギー使用量削減（都市ガス、LPG、A重油、軽油）	千kg-CO2換算（kℓ：原油換算）	防災関連施設	目標値	1,135（568.0）	1,225（613.4）	1,308（655.4）	1,410（707.6）	1,376（691.5）	1,176（591.3）	
					実績値	1,165（583.2）	1,285（643.7）	1,403（703.8）	1,258（632.3）	1,289（648.4）		
	自動車利用によるエネルギー使用量削減（ガソリン・軽油・天然ガス）		千kg-CO2換算（kℓ：原油換算）	防災関連施設	目標値	89（37.6）	90（36.4）	86（33.5）	85（32.5）	85（32.9）	80（30.6）	
					実績値	87（35.7）	89（34.5）	85（32.5）	81（30.9）	78（29.6）		
	市有施設における可燃系廃棄物発生抑制	可燃系事業廃棄物（重さ）	kg	防災関連施設 小中学校	目標値	26,948	33,975	41,680	41,765	39,090		
					実績値	25,292	37,578	41,746	48,771	34,299		
		可燃系一般廃棄物（４０ℓ袋）	袋	防災関連施設 小中学校	目標値	2,212	2,025	2,067	2,265	1,986		
					実績値	1,737	1,991	2,155	1,935	1,843		
	再生紙の使用量削減		千枚：A4換算	防災関連施設 小中学校	目標値	5,052	4,936	5,121	5,274	5,388		
					実績値	4,919	5,065	5,152	5,442	5,036		
	市有施設における水道水の使用量削減		㎥	防災関連施設 市営プール 小中学校プール	目標値	84,671	89,033	81,908	90,885	86,320		
					実績値	86,206	83,966	92,378	80,956	66,492		
環境経営	各課の環境配慮取組状況の点検	環境負荷調査の実施	回	－	目標値	4	4	4	【目標】 各部署・施設ごとに、環境負荷排出量の実績値を分析することで、各々の事業や業務状況の確認、定常状態の把握等につなげる。 エネルギー使用量（環境負荷）の大きな部署・施設について、重点的な負荷低減を試みる。 【結果（実績）】 ・従前は、各部署・施設における四半期ごとの実績値に対して、通年の目標値の４分の１を超えているかどうかで、各期の数値の確認を促していた。 　しかし、時期による使用量の増減（排出量の差）が大きいことから、通年の目標値の４分の１と比較するだけでは実績値や事業、業務状況の確認が不十分であると考えられた。 　そこで、目標値の他に、同四半期における前年度実績値及び過去５年間の平均実績値も比較数値として提示し、当年度実績値が超過している場合には「注意」と表示することで、実績値の確認は元より、定常状態の把握にも繋がるよう工夫した。 　従前の確認方法では各数値が適正であるか見えづらかったが、今回の取組によって定常状態の把握ができ、また実績値（あるいは目標値）が異常値であるのかを各部署・施設とF-e事務局（環境課）が共に確認しやすくなった。異常値であった際には、その原因や数値が適正であるかを確認することができた。このことから、同様の取組については次年度以降も継続し、数値について各部署・施設とF-e事務局の相互確認を引き続き進める。 ・例年11月に実施している事前書面調査において、実績値の確認や定常状態の把握を促すため、次の２点の追記・修正を行った。 　１．問１別紙及び問２（当年度実績値に対する評価）において、「過去５年間の平均実績値」との比較について追記した。 　２．問４（再生紙の使用量に対する評価）において、「例年（定常状態）」との比較について追記した。 　また、問３（通常業務の工夫・改善）において、管理職だけでなく一般職員の環境配慮行動の促進や水平展開を目的とし、「実行責任者以外の職員の取組等」の回答を促した。 　問１別紙及び問２並びに問４に関する取組について、定常状態に対する実績値の分析・状況把握をしている部署・施設が見られ、事務局では定常状態を踏まえた適正な分析がなされていることが確認できた。一方で、定常状態に対する分析・状況把握が不足していると思われる部署・施設もあるため、引き続き取組を進め、事前書面調査の依頼時だけでなく、職員研修等の機会をとらえて、定常状態の把握について更に意識醸成を図りたい。 　また、問３に関する取組について、一般職員の意識醸成を目的としたが、各部署・施設において実行責任者から一般職員に対して設問の問いかけが行われたかの検証はできなかった。そのため、意識醸成という目的は継続的に必要であると考えられることから同様の取組は引き続き実施し、各部署・施設への検証をF-e事務局の次年度の課題としたい。 ・温室効果ガス排出量の上位５部署・施設を重点管理部署・施設と定め、当年度実績と昨年度実績、当年度目標との比較・分析の強化等を行った。特に、第３次福生市地球温暖化対策実行計画の目標数値に対する重点管理部署の影響を注視するため、通常の数値の集計だけでなく温室効果ガス排出量（kg-CO_2）換算による数値比較や、前年度対比の削減率（%）を算出し、各部署・施設と相互的に分析することで、当該計画達成に向けた環境負荷低減を進めた。 　この取組により、重点管理部署・施設において環境負荷排出量に増減が生じた際に市有施設全体の排出量にも大きな影響を及ぼすことが改めて確認できた。そして、数値の増減に対して各重点管理部署・施設と事務局で相互確認を適宜行えたことで、実績値の再確認や増減理由の把握、あるいは目標値の変更の検討等を行えた。次年度以降も同様の取組を継続し、特に上述の計画の目標達成の一助とする。	【目標】 当年度が目標年度である第３次福生市地球温暖化対策実行計画を念頭に置きながら、各部署・施設ごとに、環境負荷排出量の実績値を分析することで、各々の事業や業務状況の確認、定常状態の把握等につなげる。 エネルギー使用量（環境負荷）の大きな部署・施設について、重点的な負荷低減を試みる。 【結果（実績）】 （１）定常状態等を踏まえた実績値の分析をするにあたり、各部署・施設による目標値の入力漏れにより適正な実施に支障がでてしまったことから、令和２年度の目標設定時より、前年度実績値に対して２倍より大きい又は２分の１より小さい場合には「確認」を促す表示（エラーチェック機能）を入力用フォーマットに実装するとともに、目標値を設定した理由を記載させることとした。 また、各部署・施設が入力するにあたり、各エネルギーの使用量ベースで行っていたが、事務局の確認作業においては自動で原油換算されたもので行っていたことから、双方で確認漏れが生じてしまう事案が発覚した。また、そのような状況であったことから誤りの発覚までに時間を要し、年度途中に発覚したため、目標変更申請及びその承認について遅滞も生じてしまった。更なる適正運用を図るため、第２四半期より、全ての調査項目について、原油換算していない燃料種別の実績値を部署・施設ごとに集計し、年間目標値に対して実績値が２倍より大きい又は２分の１より小さい場合には「確認」を促す表示（エラーチェック機能）を実装した集計表のフォーマットを作成した。 以上、フォーマットの改善により、担当部署・施設及び事務局の双方で数値の整合性について簡便に確認できるようになったこと、目標値の設定理由を記載させたことにより、要因の把握が適正に行えるようになったことから、適正な目標設定にもつながった。 一方で、マネジメントの運用改善にはつながったものの、担当部署・施設における業務改善に結び付けるというマネジメントの意義・本質にまでは至っていなかった。 （２）第３次福生市地球温暖化対策実行計画の目標達成に向け、令和２年度は計画の最終年度であったことから、特に令和元年度に設定した重点管理部署・施設を中心に、実績値の分析と更なる負荷低減を要していた。そこで、重点管理５部署・施設を含めた全部署・施設を対象に、温室効果ガス排出量を四半期ごとに自動で算出し、排出量順に並び替えてグラフ化するフォーマットを作成し、効率的に実態が把握できるよう改善した。 また、令和元年度に引き続き、重点管理５部署・施設を中心とした温室効果ガス排出量の推移について、当該年度及び過年度の排出量を併記するグラフを作成し、比較・検証を実施した。 更に、これらの結果を基に、特に重点管理部署・施設と情報共有を行い、数値の増減理由等について相互に適宜確認を実施した。 このことから、重点管理部署・施設を中心に、過年度実績値や目標値と比較した令和２年度実績値の把握や相互理解に繋がった。	【目標】 ・各部署・施設において、業務と紐づいた定常状態や所管等を着実に意識し、環境配慮行動の改善や変更といった動きに繋げる。 ・施設に着目した効果的・効率的なエネルギー使用量（環境負荷）低減を図る。 【具体的方針】 ・第４次福生市地球温暖化対策実行計画が令和３年度に開始されたことを契機として、F-e運用推進に係る改善・変更を実施する。 　あわせて、職員は改善・変更の意義（理由や経緯等）を適切に把握し、職員一人ひとりが意識して新たな運用に取り組む。 ・重点管理部署・施設をはじめとした市有施設における温室効果ガス排出量の分析と把握を進め、削減に向けた適切な対策を講じる。	別紙参照 ・令和２年度F-e環境監査報告書 ・令和３年度F-e運用推進に係る環境推進委員（トップ）の方針 【参考取組】 ・環境負荷調査 ・会議録の情報発信 ・F-eニュース、庁内通知 ※環境協働報告は、市民への働きかけに活用することを目的とし、「環境協働」の取組項目とする。
					実績値	4	4	4 ※防災食育センターについては、第３四半期から毎月実施（８回）				
		環境協働報告	回	－	目標値	1	1	1				
					実績値	1	1	1				
	環境配慮に関する取組状況の内部共有	会議録の情報発信	回	－	目標値	5	5	5				
					実績値	5	5	5				
		情報発信（F-eニュース・庁内通知）	回	－	目標値	4	4	4				
					実績値	4	4	4				
環境協働	環境配慮に関する取組状況の情報一般公開	広報・HP	回	－	目標値	4	4	4	【目標】 市民の環境への関心を高めると共に、各部署・施設からの市民との更なる協働を働きかける。 【結果（実績）】 協働報告書において、事業の種別「協働」「参加」「公開」「その他」について具体的な定義を改めて記載した。また、各事業のＰＤＣＡのＡ欄に「『参加』から『協働』への発展を図る工夫」記入欄を新設（協働種別が「参加」の場合のみ記入）した。これらのことにより、市民参加型の事業を市民協働へと発展させるための意識醸成に努めた。 この取組により、「参加」から「協働」へと発展させるための工夫が案出された事業が確認されたが、発案に至らなかった事業も見られた。発案されなかった理由として、現時点では効果的な工夫まで思い至らなかったこと、あるいは事業自体が協働に適さないものであることの２点が考えられる。令和元年度については、どちらの理由によるかの検証に至らなかったことから、引き続き協働への発展を働きかけると共に、発展に対する事業自体の適性の確認を実施する。	【目標】 市民の環境への関心を高めると共に、各部署・施設からの市民との更なる協働を働きかける。 【結果（実績）】 従前より環境協働報告書において、協働種別で「その他」に分類される事業や発展の工夫が発案されない事業、協働に向けて発展できる余地のない事業が散見されていたことから、環境協働における当該事業の位置付けや今後の取扱についての検討を行った。	【目標】 　市民の環境への関心を高めると共に、各部署・施設からの市民との更なる協働を働きかける。 【具体的方針】 ・環境協働事業について、環境協働の対象として適当か否かを改めて再点検し、事業ごとに適切な対応（部署間連携による市民への情報発信や、対象からの除外等）を検討する。 ・市は環境対策において市民を牽引する立場として、積極的・挑戦的な市民への発信強化に努める。 ・会議や事業等について、コロナ禍における安全管理を行うと共に、参集型にこだわらずwebの活用や書面による対応など、環境負荷低減を意識しながら市民の関心を高める。	別紙参照 ・令和２年度F-e環境監査報告書 ・令和３年度F-e運用推進に係る環境推進委員（トップ）の方針 【参考取組】 ・広報、HP ・「福生市の環境」 ・かんきょう通信 ・環境協働報告 ※環境協働報告は、市民への働きかけに活用することを目的とし、「環境協働」の取組項目とする。
		「福生市の環境」への掲載	回	－	目標値	1	1	1				
					実績値	1	1	1				
	市民編集員による環境情報の発信	かんきょう通信の発行	回	－	目標値	2	2	2				
					実績値	2	2	2				